

宮本 増憲 議員



一括質問方式

- ① 河川災害
- ② 市道及び橋りよりの維持管理
- ③ 市職員と教職員の休職状況等

河川災害について

問

本年7月に九州北部を初め、全国各地で局地的な大雨が降り、特に九州北部では、多数の死者、行方不明者が出る大災害に見舞われた。

今回の被害は、中小河川にかかる橋梁に流木等が詰まることが多く見られたが、本市の中小河川の実態と安全対策は

どのようなになっているのか。

答

本市における中小河川等の実態としては、県管理の一級肱川水系が142河川、二級水系が2河川あり、砂防指定地に指定されている河川が124河川、土石流危険渓流が491渓流となっています。

本市の対策としては、県に対して砂防施設等の整備を要望していくとともに、できる限り迅速に避難勧告などの情報を、複数の手段により市民の皆様にお伝えしていきたいと考えています。

しかし、今までに経験したことのないような豪雨が局地的に降る場合は、住民の皆様一人一人の判断が重要であり、地域で助け合いながらいち早く避難していただくことが重要になってくると考えています。

市道及び橋りよりの維持管理について

問

本市の高齢化率は年々上昇し、過疎化が大きく進行している中、従来の市道の草刈りや、簡易な崩土除去等に対応することが困難な地域が出てきている。

今後、市として、市道の草刈りや、日常的な管理をどのように考え、その具体的な方策等について検討されているのか。

答

市道の草刈りについては、ある程度利用者が特定されるような地域の市道は、地域の皆様にご協力いただいているのが実情です。

限られた予算と人員での市道管理に努めており、草刈りや日常的な管理については、引き続き各地域での対応をお願いしたいと考えています。なお、現在、地域での草刈り作業等の活動に対する支援等を検討しているところであり、来年度からの運用を図りたいと考えています。

市職員と教職員の休職状況等について

問

市職員には本庁、支所や公民館などに勤務し、さまざまな職種に多くの職員が勤務している。合併当初には、なれない職場環境や人間関係に戸惑いながら、悩み、苦勞した職員も多くおり、中には心の病等により休職した職員もいるのではないかとお聞きしている。合併後10年以上が経過し、今は落ちついて

いるのではないかと思っているが、実態はどうか。また、職場復帰に向けてどのように対応されているのか。

答

大洲市の職員数は大洲病院等も含め、714名が在職しています。過去3年間の職員数と心の病による休職者の推移については、少し増加したもののそのほとんどが復職し、今年度において、休職者は1人という現状です。

職場復帰に向けての対応としては、人事担当職員が、所属長や主治医と連携をとりながら、職員ごとのストレス要因の把握や職場環境の改善等について話し合いをし、職員の支援を行っているほか、必要に応じて職員に専門医等によるカウンセリングの受診を勧めています。また、いきなり復職をして病気が再発しないよう、復職前に体を職場環境にならすための試し出勤を行ったり、所属の配置転換や職務の見直しを行ったりするなど、円滑な職場復帰ができるよう支援をしています。

